

著名出身者

政界・法曹界：朝日健太郎／上田清司／越智俊之／金子恵美／川崎秀人／串田誠一／菅義偉(第99代内閣総理大臣)／鈴木直道(北海道知事)／田中和徳(元復興大臣)／徳永エリ／松下新平／山田勝彦／高須順一(最高裁判所判事)　ほか

財界：青木貴博(radiko社長)／浅田昌弘(タムラ製作所会長)／味志謙司(赤ちゃん本舗社長)／阿波誠一(ヤマト運輸社長)／石井憲(銚子丸社長)／磯部任(アマダ会長)／伊藤秀二(カルビー相談役)／井上貴功(クロスキャット会長)／大内昭彦(リンテック会長)／岡田武士(ワーナーミュージック・ジャパン社長)／長倉純己(レダックス社長)／菊地崇仁(ボイ探社長)／黒本淳之介(栃木銀行会長)／潮崎敏彦(文化シヤッター会長)／清水健一(リオン会長)／瀧澤利一(バルカー会長)／瀧澤豊(日本アンテナ会長)／永崎安基(近畿日本ツーリスト社長)／中平雅彦(高知新聞社社長)／山内英靖(やまや会長)／山本宏輔(寺岡精工社長)　ほか

マスコミ：小玉圭太(幻冬舎相談役)／小根山克雄(信越放送相談役)／竹石松次(新潟放送顧問)／中村卓朗(西日本放送社長)／大嶋貴志・小松宏司・是永千恵・佐々木智一・佐藤俊吉・鈴木奈穂子・瀬田宙大・田口詩織・戸崎悠斗・千葉美乃梨・森田哲意・吉田真人(NHKアナウンサー)／平松修造(日本テレビアナウンサー)／宇賀神メグ・小沢光義・蓮見孝之・渡部峻(TBSアナウンサー)／川野良子・木村拓也・黒瀬翔生・竹下陽平・谷岡慎一・原田葵(フジテレビアナウンサー)／菅原知弘・三谷紬・森山みなみ(テレビ朝日アナウンサー)／島田弘久(テレビ東京アナウンサー)／染谷恵二・羽佐間正雄(スポーツアナウンサー)／赤平大・大村正樹・久野静香・小島奈津子・登坂淳一・原田修佑・堀井美香・八塩圭子(フリーアナウンサー)／板橋洋佳(朝日新聞記者・新聞協会賞受賞)／鈴木健司(フジテレビジョン・新聞協会賞受賞)　ほか
※アナウンサー職としてはこのほか多くの卒業生がNHK、民放キー局、準キー局、地方局、フリーランスで活躍しています。

文芸・芸術界：飯嶋和一・大沼紀子・温又柔・竹田真砂子・乗代雄介・初野晴・藤沢周・吉田修一(文芸作家)／池田雄一(評論家)／沢野ひとし(イラストレーター)／糸井重里・勝浦雅彦(コピーライター)／稲垣徳文・岩谷光昭・鈴木一雄(写真家)／上原ひろみ(ジャズピアニスト)／金子達仁・戸塚啓(スポーツライター)／鈴村裕輔・増田明美(スポーツジャーナリスト)／高山文彦(ノンフィクションライター)／小沢かな・久住昌之・ひぐちあき・ミサコ・ロックス！(マンガ家)／杉本信昭・中江功・成田洋一・堤幸彦・真利子哲也(映画監督)／高松信司(アニメ監督)／青島千穂(アーティスト)／はままさのり・吉田玲子(脚本家)／虎澤英雄(陶芸家)　ほか

芸能界：伊藤淳史・菊池桃子・杉野遥亮・高畑充希・中江有里・星野知子・前田亜季・誠直也・真家瑠美子・美木良介・村上弘明(俳優)／小川貴之(sumika)・甲本ヒロト・小林直己(EXILE)・庄野真代・田中星児・秦基博・みなみらんぼう(音楽)／安座間美優(モデル)／菊田竜大(ハナコ)・コージ・トクダ(元プリリアン)・村上(マヂカルラブリー)(お笑い芸人)／澤登翠(活弁士)　ほか

スポーツ界：新井宏昌・石井丈裕・石川達也・石田健大・稲葉篤紀・宇草孔基・江川卓・江本孟紀・大島公一・葛西稔・木下拓哉・後藤武敏・小早川毅彦・G.G.佐藤・篠木健太郎・鈴木昭汰・高村祐・田淵幸一・西浦直亨・秦真司・廣瀬純・三嶋一輝・森田駿哉・山中正竹・山本浩二(野球)／九鬼潤・柚木武(テニス)／青山繁・大竹秀之・葛和伸元・熊田康則・古田史郎・南克幸・諸隈直樹(バレーボール)／三宅宏実・三宅義信・三宅義行(重量挙げ)／上田綺世・川勝良一・紺野和也・清水彦彦・高木友也・中野小次郎・永戸勝也・長谷川元希・水沼貴史・宮澤ひなた(サッカー)／青木涼真・磯松大輔・金丸祐三・黒川和樹・為末大・徳本一善・内藤真人(陸上)／伊藤剛臣・坂田正彰・桜庭吉彦・苑田右二・中村知春・日和佐篤(ラグビー)／青木智美・内田翔・末永雄太・柳澤明希(水泳)／尾崎世梨・西藤俊哉・数根崇裕・見延和靖・吉田健人(フェンシング)／佐藤有香・竹内洋輔・本田武史(スケート)／鈴木世察・床亜矢可・床泰留可(アイスホッケー)／高野あかり・水巻善典・森彩乃(ゴルフ)／板倉令奈・落合知也・鈴木貴美一・澤舘直人(バスケットボール)／竹鼻建・三星マナミ(スキー)／高橋侑子(トライアスロン)／井原慶子(カーレース)／篠宮龍三(フリーダイブ)　ほか

(主な著名出身者を掲載。敬称略・五十音順。役職等は2025年4月現在調べ。5月以降の役職変更等は反映していませんので、ご了承願います)

校旗・校章

校旗

■校旗

法政大学の校旗は、松室致学長の時代、大学令の施行によって名実ともに大学に昇格した1921(大正10)年4月、現在の千代田区富士見に第一校舎が新築された時に初めて作られました。しかし、この校旗は1945(昭和20)年5月25日の空襲で、本学校舎とともに焼失。二代目の校旗は1947(昭和22)年に学生からの募金(きょきん)で高島屋に依頼して制作しました。三代目となる現在の校旗は二代目のデザインを踏襲し、2008年1月に作られたものです。



校章

■法政大学

法政大学の最初の校章は、「大学」の文字の左右に「法政」の文字を記したものでした。その後、1921(大正10)年頃には「大」と「学」との間に法政の欧文イニシャル「H」を挿入したものが用いられました。1922(大正11)年、予科の山崎静太郎教授(楽堂と号して能楽の研究家・批評家でもあった)の創案で、「H」の文字を王冠で囲んだ金モールの予科の校章ができました。現在の校章は、1930(昭和5)年に制定されたもので、これも山崎教授の考案です。
大学の二字を龜の子型に図案化したもので、長い伝統と永遠の真理を表しています。



■法政大学中学校

法政大学中学校の校章は、旧制の法政中学校そして新制の第一中学校へと引き継がれてきました。これは学制が旧制から新制に変わるなかで、本来なら新制の高校へと引き継がれるところですが、当時は新旧学制の変更や旧制の法政大学商業学校との再編の狭間で、前身を問うのではなく、同じ「中学」としての校章が引き継がれました。



■襟章(バッジ)

1958(昭和33)年、それまで学部ごとに作られていたバッジを統一しようと、学生から図案を募集しました。数多くのアイデアの中から、経済学部第二部3年生(当時)の宇津木牧男さんの作品を原図案として、のちに東京オリンピックのシンボルマークをデザインした亀倉雄策氏にデザインを委嘱、現在のバッジができました。法政大学のスクールカラーである紺色とオレンジ色を使い、紺色の地にオレンジ色の「H」の文字をあしらっています。



■略旗

校旗が学位授与式・入学式で使用されるのに対し、略旗はその他の大学主催の行事および校友の会合において、大学のシンボル旗として使用されています。略旗のデザインの起源については、元々応援団の「団旗」によるものと考えられますが、寸法などが不明確であったため、1990(平成2)年、正式に縦180cm、横270cmとし、また中央の「H」の位置をはじめとする細かな寸法も定められました。



■法政大学高等学校 法政大学第二中・高等学校

この校章は法政大学予科の校章として制定されたもので、現在は法政大学高等学校、第二中・高等学校の校章になっています。
校章の中心に「Hosei」の頭文字の「H」、下は「University」の頭文字の「U」を表し、上に王冠をいただいています。この王冠はフランス型の王冠で、法政大学の前身東京法学校が1890(明治13)年に設立され、自由民権と人類普遍の自然法を謳歌したフランス法思想を命脈として、教学の指導者にフランス人法学者ボアソナード博士があつたことから、フランス型の王冠にしたと伝えられています。また、中心の「H」は「Hope」の意味を含ませ、純情で潔白な青年の希望を表します。



■法政大学国際高等学校

付属校として誕生した翌年の1950(昭和25)年4月に制定されました。全体の形は盾で、Chastity(清純)を表します。HOSEI UNIV. の地の水色は清らかさを、文字のオレンジは情熱を表しています。左上はクラウンHで、法政大学の伝統ある紋章です。右下のSは高等学校(Senior)を表します。



■ブランドマークとエンブレム

「自由と進歩」の学风をより分かりやすく伝えるため、2013年にブランドマークとエンブレムを策定しました。
ブランドマーク：さまざまな方面でエネルギーに躍動する法政大学の姿を、Hの文字でシンボリックに表現しました。
エンブレム：ブランドマークと同様の考えに基づき、法政大学の伝統ある校章とその頭文字H、そしてシンボルモチーフを組み合わせてエンブレムとして表現しました。



スクールカラーの由来：法政大学のスクールカラーは、オレンジと紺(法政ブルー)です。古い応援歌の歌詞によると2つの色は「曉(あかつき)の太陽」と「青空」を表しています。ただし、ブルーの色合いは、紫より濃い青紫です。印刷番号は、オレンジがDIC161(4色分解／Y100%+M60%)、ブルーはPANTONE280(4色分解／C100%+M90%)。